

地域の温かな力を得て、地域のために役立つ人になる！

夏休みに枯れてしまった正門前の松が、移植という形で11/10(月)に生まれ変わりました。これは夏休みの終わりに、地域の方から「正門の松が枯れているので、自分が寄付するから代わりのものを何か用意してほしい」というご厚意の電話をいただき、それに甘えさせていただいたものです。匿名希望なので名前を出すことはしませんが、この方は過去2年間、本校のグラウンドやテニスコートにあった不要な丸太、ランチルーム横の倉庫にあった大きな板の処分、テニスコートに新しいベンチの寄付等、本校の環境面の改善において多大なるご理解とご協力をいただいています。



また、先月末には2年生の職場体験が3日間行われました。事前のマナー講座を皮切りに、ほとんどの子どもたちが町内の職場でお世話になりました。これまでの勤務校ではかなり広域の職場に対応してもらっていたので、本校は本当に恵まれていることに感謝しています。3日間ではありますが、「働くこと」の楽しさや厳しさ、喜びや苦しみなど、普段の学校では学べない多くのことを自分自身の五感で体感してくることができました。各職場の皆さん、本当にありがとうございました。このような地域の温かさに包まれて育つ子どもたちは、教育環境として本当に恵まれていると思います。引き続き、地域の皆様にはこのような温かさで子どもたちを見守り、学校とともに育てていただければと願います。



さて、子どもたちは地域の温かさを感じるなかで、これから地域を担う存在として、いかにすれば役に立つかということを学ぶ機会がありました。11/5(水)に行ったシェイクアウト避難訓練では、いかにして自分の大切な命を守るか、みんなで互いに命を守り合うかについて考えるとともに、最も大きな課題は「被災することの大変さに気づくこと」でした。今回のリアルHUG(避難所運営ゲーム)は、被災者の受け入れが主でしたが、実際には避難所には支援物資や不足物資(簡易トイレなど)が届いたり、マスコミなどの急な来客対応があったり、何よりも受け入れた被災者たちが黙って静かにしているわけではありません。次から次へと難題が押し寄せてくることでしょう。最後に香川大学の高橋先生が、「日中に災害が発生したら、町内にいるのは幼小中学生と高齢者だけ。中学生は貴重な戦力。普段は都合の良い大人だと思うけれど、災害時にはちょっと背伸びして、大人として活躍してほしい」と指導・助言されました。災害時には、①自分の命を守るために、いつ何時も安全な場所にいち早く逃げる。その勇気が他の命も救う、②生き延びたら、他人のために何ができるか考え、そして実行する。この2つをぜひ実践してもらいたいと思います。

最後に、11/9(日)の午前中に行われたふれあいプラザにおの文化祭には、見学だけでなく、うどんのバザーの手伝いボランティアに6名の子どもが参加しました。2時間ずつの手伝いでしたが、お客様からバザー券を預かったり、うどんに薬味を足して手渡したりと大忙しでした。これも地域のために頑張る立派な行為だと思います。参加してくれた6名の皆さん、ありがとうございました。

